

## 中小企業のIT経営研究部会の活動について

高島利尚（たかしま としなお）

前 中小企業のIT経営研究部会主査 （社）クラウドサービス推進機構

田口由美子（たぐち ゆみこ）

現 中小企業のIT経営研究部会主査 湘北短期大学

### 1. はじめに

本研究部会は、中小企業のIT経営を主体的に担ってきたITコーディネータなどの実務家との協調、かつ中小企業の活性化、地方創生に係る諸機関・団体と連携を図り、中小企業のIT経営のあるべき姿を探求し、中小企業の経営力強化を通じて日本の産業振興に寄与することを目的として、2012年4月4日に発足した。上述の目的を達成するために実施している活動は大きく5つある。

- A. 総会：事業報告および事業計画の発表とシンポジウム実施
- B. 静岡県浜松市において合宿形式の勉強会（浜名湖フォーラム）：IT経営に関するテーマ発表
- C. 経営情報学会秋季大会の参加：研究部会セッションとして、地域固有の中小企業のIT経営に関する発表
- D. 地方大会：各地域において中小企業のIT経営の状況を共有する研究会
- E. 分科会：個別分野のテーマを研究するために、人材育成分科会、ものづくりクラウド分科会、eBooks2.0時代のビジネスモデル分科会、中部分科会がある。

現在の研究会メンバーはビジネスパーソン、ITコーディネータ、研究者など約61名在籍している。2章以降で最近の具体的な活動を紹介する。

### 2. 総会

総会は年に1回春季に行っており、2部構成からなる。前半は、研究会メンバーと研究会の目的の確認、活動の振り返りと、今後の1年間の計画を

立案する。後半では、シンポジウムを行っている。2016年度および2017年度のシンポジウムの概要は次の通りである。

#### 2.1 2016年度シンポジウム

開催日：2016年4月9日（土）

テーマ：テレワーク活用でつくる女性活躍社会

内 容：

(1)「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業 横須賀・松本商工会議所地域連携モデル事業」成果ご報告【(株)ノークリサーチ 伊嶋氏 木村氏、(株)富士通マーケティング 浅香氏】

(2) パネルディスカッション

「テレワーク活用でつくる女性活躍社会」【パネラー：(株)ノークリサーチ 伊嶋氏、新潟大学 大串氏、湘北短期大学 田口氏、共同印刷(株)吉丸氏】

#### 2.2 2017年度シンポジウム

開催日：2017年4月22日（土）

内 容：

(1)「クラウドサービス認定プログラムにみる最新動向」【(一社)クラウドサービス推進機構 松島理事長】

(2) パネルディスカッション

「クラウドサービスの今がわかる！最新クラウド活用事例」【パネラー：センターフィールド(株) 原島氏、(株)エーアイ 西村氏、rakumo(株) 御手洗氏、コーディネータ：富田IT経営コンサルティング合同会社 富田氏、司会：都築電気株式会社 柏原氏】

### 3. 合宿形式の勉強会（浜名湖フォーラム）

年に1回、夏季に静岡県浜松市において2泊3日合宿形式の勉強会を実施している。通称、浜名湖フォーラムと呼んでいる。本会は、一般社団法人クラウドサービス推進機構、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会と共催である。各分野で活躍するビジネスパーソン、ITコーディネータ、大学関係者などが参集し、IT活用をテーマに発表、意見交換を行っている。2016年度、2017年度の概要は次の通りである。

#### 3.1 2016年度 浜名湖フォーラム

2016年度の参加人数は約30名であった。概要は次の通りである。

##### (1) 日程

期 間：2016年8月26日（金）～8月28日（日）  
場 所：「アクトシティ浜松」

##### (2) 主な発表テーマ（発表者）

- ①地域のIT資源の定量尺度化（同志社女子大学 加藤敦）
- ②情報サービス業界の構造的課題と私の考える処方箋（NCS&A 高坂匠）
- ③「攻めのIT経営」応募支援のコツ（TMI 高島利尚）
- ④パネルディスカッション「第4次産業革命と中小企業へのインパクト」（パネラー：経済産業省製造産業局 安藤尚貴、JIPDEC 坂下哲也、浜松商工会議所 大木誠、コーディネータ：クラウドサービス推進機構 松島桂樹）
- ⑤「萩燃ゆフォーラム」から見る地方創生のあり方（ITコーディネータ協会 前田信太郎）
- ⑥IoTにおける、機械学習を活用した異常検知の適用シーン（ブレインズテクノロジー 河田哲）
- ⑦「JUAS企業IT動向調査2016」の分析を通じて（新日鉄住金ソリューションズ 向正道）
- ⑧サービスデザイン思考関係の話（株式会社オージス総研 竹政昭利）
- ⑨サプライチェーンEDI最新事情（サプライチェーン情報基盤研究会 菅又久直）
- ⑩FAXに勝てるEDIを目指して—中小企業共通EDIの実用化と普及—（ITコーディネータ協会 つなぐIT推進委員会 川内晟宏）

- ⑪E-Commerceの新潮流（ロックオン 宗平順己）
- ⑫「第1回ASIA MUSIC FESTIVAL」開催報告（長岡技術科学大学 佐野憲）
- ⑬IoT時代の持続可能なモノづくり（ESD21 黒岩恵）
- ⑭ロボット・IoT等の推進と中小企業経営（日本商工会議所 小松靖直）
- ⑮組織に固有な職場リーダーの人材要件（三菱総合研究所 佐々木康浩）
- ⑯サービスデザイン思考について（株式会社オージス総研 仙波真二）
- ⑰これからの50代以上の女性市場ビジネスモデル研究会について（共同印刷株式会社 吉丸滋美）
- ⑱日本の中小企業を強くするフィンテック（クラウドサービス推進機構 松島桂樹）
- ⑲博士号授与論文報告と今後の研究テーマ（北海道情報大学 栗山敏）

#### 3.2 2017年度 浜名湖フォーラム

2017年度の参加人数は42名であった。概要は次の通りである。

##### (1) 日程

期 間：2017年8月25日（金）～8月27日（日）  
場 所：「アクトシティ浜松」

##### (2) 主な発表テーマ（発表者）

- ①中小企業支援の視点と支援に伴う手法（TMI 高島利尚）
- ②企業間データ連携プロジェクト（サプライチェーン情報基盤研究会 菅又久直）
- ③私の生き様と還暦を超えて成すべきこと—日本でデジタルインキュベーションを起こす—（NCS&A 高坂匠）
- ④中小企業のスマートファイナンスの実現に向けて（クラウドサービス推進機構 松島桂樹）
- ⑤中小企業の喫緊の課題：抜本的な生産性向上～支援の立場で何ができるか～（株式会社東京IT経営センター 田中渉）
- ⑥サービスデザイン思考に必要とされるマインドセットと組織（株式会社オージス総研 竹政昭利）
- ⑦リアルビジネス直結のデジタルビジネス大学教育（北海道情報大学 明神知）
- ⑧経営はこれからの人材不足にどう備えるべきか？（株式会社はまぞう 佐野憲）

- ⑨ IoTの投資評価問題とリアルオプションの可能性  
(同志社女子大学 加藤敦)
- ⑩小売業におけるデジタルトランスフォーメーション  
(Kyoto ビジネスデザインラボ 宗平順己)
- ⑪ IoTプロジェクトについて (有限会社ボランチ  
21 大橋知子)
- ⑫働き方改革とTPS/Lean/Agileプロセス (ESD21  
黒岩恵)
- ⑬パネルディスカッション「ソサエティ5.0, コネク  
テッドインダストリーの戦略と諸施策」(パネ  
ラー: 日本商工会議所 小松靖直, 経済産業省  
安藤尚貴, 経済産業省 榊原風慧, モデレータ:  
クラウドサービス推進機構 松島桂樹)
- ⑭システム・オブ・エンゲージメント再考 (株式会  
社イージフ 石井昭紀)
- ⑮機械学習を活用した異常検知の適用シーン (ブレ  
インズテクノロジー株式会社 河田哲)
- ⑯変革期における対話型コンサルティングの重要性  
(T&I アソシエイツ 田中薫)
- ⑰「社長が決めた！」IT化のお手伝い (城西国際大  
学 柏原剛)
- ⑱我が国におけるRPAの可能性 (三菱総合研究所  
佐々木康浩)
- ⑲デジタルがもたらす市場構造の変革 (株式会社イ  
ンテック 中川郁夫)
- ⑳地方創生にRESASは使えるか (ITコーディネー  
タ協会 前田信太郎)
- ㉑AIを使ってみて判ったこと (株式会社ケイ・オ  
プティコム 岩本元)
- ㉒マイナンバーサービス事例の紹介 (センター  
フィールド株式会社 原島啓輔)
- ㉓ビジネスプロセスの高密度化と競争優位 (新日鉄  
住金ソリューションズ 向正道)
- ㉔これからの50代以上女性市場ペルソナとコスメ  
の創作 (共同印刷株式会社 吉丸滋美)
- ㉕データ時代の情報戦略と投資意思決定の事例紹介  
(株式会社リクルート 大久保光憲)
- ㉖熱血教室ライブ (北海道情報大学 栗山敏)

#### 4. 経営情報学会秋季大会への参加

経営情報学会の研究発表大会は年に2回行われているが、そのうち秋季に行われる大会で、本会は研

究部会セッションとして参加している。セッションでは、その開催地で活躍されているビジネスパーソンによる講演と、参加者と意見交換を行っている。2016年度、2017年度の大会の概要は次の通りである。

##### 4.1 2016年度経営情報学会秋季大会

開催日: 2016年9月16日(金)

場 所: 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

内 容:

テーマ: 関西の中小企業における女性活躍

###### (1) 関西の中小企業における女性活躍の事例紹介

関西の中小企業2社より、女性が働き続けられる取組み、女性がやりがいをもって働く取組み、その効果と課題について報告を行った。

講師: ①株式会社プロアシスト 代表取締役社長 生駒京子氏, ②株式会社事務助 代表取締役/ビズシード株式会社大阪支社長 梶本比沙

###### (2) パネルディスカッション

女性活躍推進法を受けて、感じられる変化、いままでの取組みを改めて振り返って、女性が活躍しやすくするには、どうしたらよいか、など、ご講演者と研究会メンバーで意見交換を行った。

##### 4.2 2017年度経営情報学会秋季大会

開催日: 2017年9月22日(金)

場 所: 岩手県立大学アイーナキャンパス・いわて  
県民情報交流センター(アイーナ)

内 容:

テーマ: 東北の中小企業のIT経営 一宮城県の事例から

###### (1) 事例紹介

震災の影響を受けた宮城の中小企業によりIT活用に至る経緯, IT活用の概要, 効果, 課題を報告する。

講師: ①株式会社ヤマウチ 専務取締役 山内恭輔, ②株式会社十一屋ボルト 営業主任 郷家雅人

###### (2) 事例発表者とのパネルディスカッション

報告者と研究会メンバーにより意見交換し, 中小企業のIT経営の成功要因, 震災によるダメージの解決方法などを検討した。

## 5. 地方大会

年に1回冬季に、地域の中小企業のIT経営の状況を共有するための研究会を、当該地域で行っている。2016年度は、株式会社ノークリサーチ創生する未来事業部（現一般社団法人創生する未来）のサポートにより秋田県仙北市で実施した。実施概要は次の通りである。

「近未来技術で地方は変わる、秋田から革新の潮流を起こす。」をメインテーマに、2017年3月10日に、秋田県仙北市わらび座 温泉ゆぼぼ セミナールームにて開催した。参加人数は総勢61名である。秋田県からは仙北市の近未来技術実証事業の関係者、仙北市や県内のIT企業の団体である秋田県情報産業協会などを中心に約30名、首都圏からは学会の関係者中心に約30名、その他2名が参加した。本大会は、セミナーと事例発表の二部構成からなる。実施概要は、次の通りである。

### 5.1 第一部：セミナー

#### (1) 開会宣言

経営情報学会 中小企業のIT経営研究部会：主査 高島利尚

#### (2) 来賓挨拶

特定非営利活動法人ITコーディネータ協会 常務理事 IT経営研究所長 平春雄

#### (3) 基調講演

秋田は近未来技術で生まれ変わる、攻める自治体  
仙北市 仙北市長 門脇光浩

### 5.2 第二部：事例発表

(1)「秋田の救世主と期待されるわらび座の究極の戦略とは？」株式会社わらび座 代表取締役社長 山川龍巳

(2)「地元販売店連携による県内12町村の共同システム構築の意義と展望」一般社団法人秋田県情報産業協会 理事副会長 九島正広

(3)「近未来技術で描く秋田の老舗製造業の未来」  
東光鉄工株式会社 UAV事業部シニアマネージャー 鳥瀧與明

(4)「先進ICT技術でイベントライブを多彩に演出する高付加価値・参加型コンテンツの開発」株式会社オクトライズ 代表取締役 茂木聡

(5) 総評 明治大学 経営学部教授 岡田浩一

## 6. 分科会

4つの分科会、人材育成分科会、ものづくりクラウド分科会、eBooks2.0時代のビジネスモデル分科会、中部分科会の活動概要は次の通りである。

### (1) 人材育成分科会

当分科会は、研究会と人的交流を兼ねた座談会（女子会）を開催している。テーマは、介護とIT活用、女性活躍、ワーク・ライフ・バランス、ワークスタイルの変化である。

### (2) ものづくりクラウド分科会

当分科会は、生産管理アプリケーションのクラウドサービスのフィージビリティスタディ、をテーマに活動している。

### (3) eBooks2.0時代のビジネスモデル分科会

当分科会は、書籍だけでなくマーケットに流通させるべきさまざまな作品や商材を対象とした次世代電子書籍の概念として「eBooks2.0」を掲げた。情報交換フェーズとして電子書籍および関連・類似するマーケットやITについての情報収集と意見交換、さらに具体的なターゲットの設定とビジネスモデルについてのディスカッションを行う。

### (4) 中部分科会

当分科会は、中部地域での中小企業のクラウド普及に向けて、中部地域の強みである、モノづくり、とりわけインダストリー4.0が提唱されているなか、日本のなかで中部を光らせることを目的として活動している。

## 7. おわりに

いずれの活動も、業種・業界、年齢など異なる多様な参加者が集まり、互いの知見を共有し、フラットに意見交換しやすい場となっている。関心のある方は研究部会に足を運んで欲しい。